

11月1日から

フードドライブはじめます

困っている人と地球を救うフードドライブ 3つのポイント

フードドライブとは

各家庭で余った未使用食品を1品単位で集め、それらをまとめてフードバンク団体や地域の福祉施設・団体などに寄贈する活動。寄付をきっかけに、支援を必要とする家庭と福祉団体がつながるメリットもある。

POINT 1 気軽にできる人助け

フードドライブは、誰でも気軽に参加できる慈善活動の一種です。「賞味期限が一定期間以上ある」などの条件をクリアすれば、誰でも寄付ができます。買い過ぎたり、いたできもので食べきれない食料品などを寄付すると、必要な人のもとへと届けられます。

なぜ今、フードドライブなのか。フードバンクはむら代表の松崎博満さんは「コロナ禍で、アルバイトやパートの仕事がなくなってしまうなど、困っている方が多いと聞きました。でも市へは相談がきていないというので、市に相談するのは敷居が高いのかもしれない、だったらボランティアなら利用しやすいのではないか、そう考えてフードバンクを立ち上げました。昨年の9月に設立し、現在は月1回くらいのペースで福祉施設などに届けたり、福



▲フードバンクはむら代表の松崎博満さんは、環境問題にも強い関心を寄せている。

祉センターで、配布会を開いたりしています。前回の配布会には60人ほどの利用があったので、やはり需要はあるのだと実感しました」

実際に活動を始めたところ、食料品の回収やPRが難しいなど、課題も見えてきました。

「PRは商工会に協力いただいて、会員への手紙に『フードバンクはむら』のチラシを同封したり、店舗にポスターを貼っていただいたりすることができました。食料品の確保は、市内の事業者や農家の方などにも協力していただいています」

今回の市との合意で、受け付けの窓口が市に設置されます。

「市役所が窓口だと分かりやすいし、市が後ろ盾ということで信用度も高まる。有難いです。この活動が広がって、『困っている』と言えない人がいない環境になれば良いと思います。そのために地道に活動が続けていきたい」と松崎さんは話します。「ボランティアも募集中です。趣旨に賛同してくださる方、一緒に活動しませんか」

●フードバンクはむら

羽村市富士見平1-4-1
☎554-6367（火・水・金・土・日曜日の午前10時～午後5時）

フードドライブにこのような食料品をお寄せください

受入れ可能な食品

- 米（精米したものは、精米後1か月以内のもの）
 - 缶詰・瓶詰
 - レトルト食品
 - インスタント食品
 - お菓子、飲み物
 - 調味料、粉類（パン粉など）
 - 乾物など
- ※量が多くなる場合は事前に連絡してください。

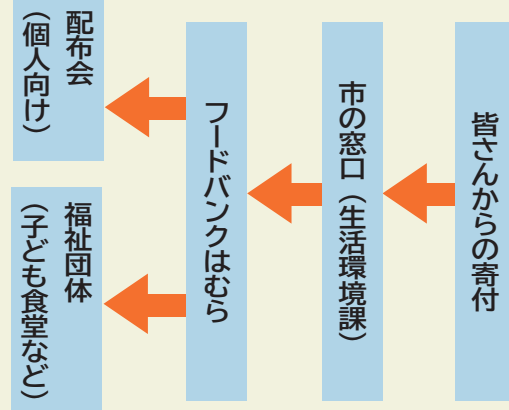
受入れできない食品

- ×賞味期限が1か月未満のもの、賞味期限が明記されていないもの（米、塩、砂糖、ガムは可）
- ×生鮮食品や常温で保存できないもの
- ×開封されているもの
- ×アルコール飲料（料理酒は可）
- ×サプリメントや保健機能食品など
- ×商品説明が日本語ではないもの

●フードドライブの窓口・問合せ

市役所2階生活環境課☎204（月・金曜日の午前9時～正午、午後1時～5時。祝日、年末年始を除く）

羽村市のフードドライブの仕組み



▲10月4日に開催された「食品の譲渡に関する合意書」締結式。フードバンクはむら代表・松崎さん（左）と橋本市長

POINT 2 食品ロス削減にも効果あり

フードドライブの取組みには今や大きな問題になっている「フードロス（食品ロス）」削減の効果もあります。フードドライブを定期的・継続的に行うことで、フードロス・ごみ削減、環境保護にもつながります。

各家庭で買いすぎってしまったもの、いたできものの茶葉やお菓子など、食べきれないものがあつたら、寄付をしてみませんか。1品でも結構です。食品が無駄にならず、必要としている人に届けられます。ぜひご協力ください。

羽村市でもフードバンク団体と協力した食品回収「フードドライブ」をはじめたよ

《そんなときはフードドライブ！の巻》 問合せ 生活環境課☎204

良かったね！

当選したグルメセットが届いたー

うわーこんなにいっぱい入ってるー

うちだけで食べきれないかもしれないね

そんな時は『フードドライブ』。食べきれない食品を集めて必要な所に渡してくれるんだよ

食品ロスも減らせるし、人助けにもなるね！

そんな時は『フードドライブ』しよう!!

常温で保存できる食品やレトルト食品・缶詰など生活環境課へ持ってきたよ

使わなかったり、買いすぎたりした食品を持ってきてね